

氏名	吉川 明良
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 5590 号
学位授与の日付	平成29年9月29日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Correlation between the Efficacy of Lamotrigine and the Serum Lamotrigine Level during the Remission Phase of Acute Bipolar Depression: A Naturalistic and Unblinded Prospective Pilot Study (双極性障害 型急性期うつ状態から寛解時の血中ラモトリギン濃度と効果の関係：実臨床上での非盲検、前向き予備研究)

論文審査委員 教授 山田了士 教授 浅沼幹人 准教授 岡田あゆみ

### 学位論文内容の要旨

ラモトリギン（以下 LTG）は双極性障害患者の急性期うつ状態に効果があるとされている。しかし、この急性期うつ状態から寛解させる至適な血中濃度に関しては明らかとなっていない。そこで、本研究では双極性障害Ⅱ型患者（入院患者：12名）に対する急性期うつ状態に対する LTG 投与による寛解時の血中濃度と寛解までの日数に関して非盲検的に前向き試験として行った。うつ状態の評価は Montgomery-Åsberg Depression Rating Scale (MADRS) を用いた。その結果、LTG によりうつ状態が寛解した際の血中濃度と MADRS 改善度には相関は認められなかった。LTG 開始から寛解までに要した日数の中央値は 6 週間だった。今回の調査では LTG は双極性障害Ⅱ型患者の急性期うつ状態に対して有効な薬剤であるが、LTG の血中濃度がうつ状態改善に対する重要な因子にはないことが明らかとなった。さらに、LTG 開始から約 6 週間経過してもうつ状態に対して改善が見られない場合は他の治療選択を考慮する必要があると考えられた。

### 論文審査結果の要旨

本研究は、双極性障害のうつ病相治療に用いられる lamotrigine (LTG) の血中濃度と治療効果との関連について前向き試験を行ったものである。治療効果はうつ病症状評価の MADRS を用いて判定し、12 点以下（寛解）に至るまでの速さを指標とした。この寛解速度と寛解時の LTG 血中濃度との間には相関が認められなかった。一方で寛解に要した期間は 6 週間を中央値として一定のまとまりがあり、血中濃度よりも投与期間の方が効果判定の指標となり得る可能性が示唆された。以上、双極性障害のうつ状態に対する薬物療法について、臨床的に重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。